

## 教材活用シリーズ 第142回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介いたします。

子どもたちも先生方も、  
授業でより使える社会科資料集に！

(株)日本標準  
『社会科資料集』



(株)日本標準  
企画編集本部

### 1. はじめに

「社会科資料集、魅力ある資料がたくさんあるのですが、うまく授業で活用できていないんですよ。」「授業中も、子どもたちに机の上には置かせているものの、なかなか開くところまではいかないんです。」

多くの写真、統計資料、社会的な話題を掲載している社会科資料集。しかしながら、先生方からは、なかなか使いこなせていないというご意見を頂戴しています。

そこで、当社の社会科資料集では、『子どもたちも先生も、授業でより使える社会科資料集』というコンセプトを掲げ、編集をしています。

### 2. 授業でお使いいただくために

#### ① 「学習のすすめ方」がわかる

子どもたちは「資料をどのように見たらよいかわからない」、先生方は「どのように学習をすすめたらよいかわかりにくい」。このようなご意見をもとに、まず、単元名の右側に「学習のすすめ方」を掲載しました。本単元で学習する内容、すすめ方と、それらに対応する資料番号を表示しました。

#### ② 「キーワードを使ってまとめよう！」

「この単元のポイントは何だろう」という子どもたちの疑問に対して、学習したことをまとめるために、見開きページの右下に、「キー

ワードを使ってまとめよう！」を掲載しました。キーワードを書きこんで単元のポイントをまとめることで、子どもたち自身が主体的に学習に取り組めるようにしています。

#### ③ 紙面をより親しみやすく、わかりやすく

親しみやすい先生と子どもたちのキャラクターのふき出しで、資料の読み取りの視点をアドバイスしています。また、ユニバーサルデザインフォントを使用しています。

#### ④ 「赤刷り教師用書」で、先生方をフォロー

「この資料のここを伝えたい」「おもしろいネタで、子どもたちを惹きつけたい」という先生方へ、資料の補充説明や、子どもたちにつかませたい気づきや読み取らせたい内容を、マークで分けて教師用書の赤刷りで掲載しています。子どもたちへのワンポイントアドバイスにもお使いいただけます。



▲社会科資料集5年 紙面の特長

⑤ 大型掲示用資料  
A1サイズの特大掲示用資料が、5年8種類、6年7種類。導入資料として活用できます。

3. 授業以外でも活用できるアイテム

① 「作業ノート」5・6年

5年は地図・統計資料、6年は年表などを使って、単元の学習ポイントや重要なことばをおさえることができます。

② 「都道府県 地理・産業カード」5年

「都道府県名」「特色（ヒント）」をもとに、一人でもみんなでもカード遊びができます。

都道府県の位置や県庁所在地が一目でわかり、都道府県の面積くらべもできます。

③ 「歴史人物学習シール」6年

歴史上の重要人物48人の肖像画や写真、イラ

▼「作業ノート」6年



ストのシールです。ノートやカード、新聞づくりに活用できます。

4. GIGAスクールへの対応

オンライン版 デジタル社会科資料集  
「しゃかWEB」

表紙のQRコードを読み取り、もくじにあるユーザー名とパスワードを入力することによって、パソコンやタブレット、スマホでいつでもどこでも本誌の全単元ページをそのまま電子ブック形式で見ることが出来ます。拡大縮小が自由自在にでき、ふせんやペンツールを使った書きこみもできます。子どもたちも先生方も使えます。

5. 魅力ある話題の掲載

巻頭特集は、毎回力を入れていきます。2021年度版は、5年が「くらしや産業を支える工業技術（人々の安全を守るロボット技術／人々のくらしや産業に役立つロボット技術）」、6年が「感染症の歴史と人々の願い（エール花火と人々の願い／感染症と日本の歴史／病気に立ち向かった人々）」。

いずれの学年も、コロナ禍に生きるわたしたちのくらしについて考える内容を掲載しました。最新の社会情勢を、社会科5年、6年の学習内容に関連付けて、巻頭特集を組んでいます。

6. 終わりに

子どもたち、先生方に授業でより使っていた



▲「しゃかWEB」の画面（社会科資料集5年）

だけるように、さまざまな工夫を施しました。2020年からは、教科書の大判化、重量化の傾向が顕著ななかで、できる限り重さをおさえた用紙を使用しています。従来よりも当社比で60グラム軽減しました。

子どもたちが、社会科資料集を通して、最新の社会情勢、統計資料に触れながら、主体的に学習できるように、そして社会の一員として行動でき、多様な考え方をもてるようになってほしいというのが、わたしたちの願いです。今後、社会情勢に興味・関心をもち、自らの考えをもって行動できるような子どもたちを育てる教材を目指して参ります。